令和3年度 全国学力・学習状況調査 上富良野町の結果について

令和3年10月4日 上富良野町教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を 把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生 徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育 に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象学年 町内小学校第6学年、町内中学校第3学年 原則として全児童生徒

3 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)
 - ・身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力など

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査			
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の	・指導方法に関する取組や人的・物的な教			
諸側面等に関する調査	育条件の整備の状況等に関する調査			

5 調査を実施した学校・児童生徒数(全国悉皆調査)

	上 富	良 野	北	毎道	全	国
	学校数	人数	学校数	人数	学校数	人数
小学校	3	61	972	36, 456	18, 965	993, 975
中学校	1	84	567	34, 700	9, 475	903, 157

Ⅱ 調査の結果

(※今回の調査で測定できるのは「学力の特定の一部分」であり、子どもの学力の全てでないというおさえに立っています。)

1 児童生徒の学力の状況

(1) 小学校

教	科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
国	語	63.0	64.7	全国平均正答率を下回る
算	数	67.0	70.2	全国平均正答率を下回る

(2) 中学校

/					
	教	科	全道平均	全国平均	全国に対する上富良野町の平均正答率
	国	語	65.0	64.6	全国平均正答率とほぼ同様
	数	学	56.0	57.2	全国平均正答率とほぼ同様

※上記の基準 「上回る」 +3以上 「やや上回る」 +1~+3

「ほぼ同様」 ± 1

「下回る」 -3以下 「やや下回る」 $-1\sim-3$

小学校は、国語・算数とも全国平均正答率を下回っている。国語では、「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うこと」に成果が見られるが、「「文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けること」「中心となる語や文章を見付けて要約すること」に課題が見られる。

算数では、「グラフから数量を読み取ること」に成果が見られるが、「商が1より小さくなる 除法の場面から、数量関係を捉え、立式し計算すること」に課題が見られる。

中学校は、国語・数学ともに全国平均正答率とほぼ同様となっている。国語では、「質問の意図を捉えること」「文脈に即して漢字を正しく読むこと」に成果が見られるが、「書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くこと」に課題が見られる。

数学では、「与えられたデーターから中央値や必要な情報を適切に読み取ること」に成果が見られるが、「数学的に説明すること」「数学的な表現を用いて説明すること」に課題が見られる。

2 児童生徒質問紙の傾向

- ※ 数字は%、「している」「どちらかといえばしている」など肯定的な割合の合計です。
- ※ は全国平均より(+5)以上 は全国平均より(-5)以下を表しています。

(1) 家庭での生活・学習について

○基本的な生活習慣

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校	全 国
朝食を毎日食べている	97. 6	94.9	96. 5	92.8
毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.4	81.2	83.4	79.8
毎日、同じくらいの時刻に起きている	93. 9	90.4	95. 2	92.7
家で、計画を立てて勉強している	82.7	74.0	67.8	63.5

○平日、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか?

(学校の授業以外で学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以下	全くしない
小学校	1. 2	11. 1	46. 9	33. 3	6. 2	1. 2
全 国	11.6	15. 3	35. 6	24. 5	9. 5	3. 5
中学校	2.4	28.6	33. 3	20. 2	13. 1	2.4
全 国	12. 3	29. 5	34. 1	14. 1	6.4	3. 5

○平日、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか?(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

	3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分以下	全くしない
小学校	3. 7	9.9	11. 1	29.6	19.8	25. 9
全 国	7.4	10.8	19. 2	23.8	14. 7	24. 0
中学校	11. 9	8.3	11. 9	27. 4	16. 7	23.8
全 国	5. 5	8.6	14.8	21. 2	12.4	37. 4

○平日、1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか?

(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)

` _	· - ·	/ / 1/1/	114 - 4 - 5 - 1 - 1	27114 (DHH ()	1 / /4 .		0 1 0
		4時間以上	3~34時間	2~3時間	1時間~2時間	1時間未満	全くしない
,	小学校	25. 9	16. 0	24. 7	22. 2	9. 9	1. 2
	全 国	15. 5	13.5	20.4	26.8	16. 5	7.2
	中学校	19. 0	20.2	28.6	19. 0	8.3	7. 3
	全 国	16. 7	15. 6	24. 7	23.0	12. 4	7. 3

小・中学生とも家庭における基本的な生活習慣(早ね・早おき・朝ごはん)が身に付いている。「家で計画を立てて勉強している」割合は、小・中学生とも、全国より $5\% \sim 7\%$ 多いが、1時間以上勉強しているのは、小学生で約3%、中学生では約11%少なくなっている。

読書時間については、「30分以下・全くしない」小学生は、全国より7%多くなっているが、中学生は、全国より約9%少なく、全国と比較し読書する生徒は多くなっている。

一方、「平日、1時間以上ゲームをしている」小学生は、全国より約12%、中学生は全国より約4%と多くなっている。

(2) 学校での生活・学習について

質問事項	小学校	全 国	中学校	全 国
自分には、よいところがある	79. 1	76. 9	70. 2	76. 2
将来の夢や目標を持っている	86. 5	80.3	63. 1	68.6
自分でやると決めたことはやり遂げるようにしている	81. 5	84. 3	90. 5	84. 2
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している	71. 6	70.9	75. 6	66. 5
学校に行くのは楽しい	85. 2	83. 4	85.8	81. 1
いじめは、どんな理由があってもいけない	98.8	96.8	100.0	95. 9
人の役に立つ人間になりたい	90. 1	95. 5	95. 2	95.0
国語の勉強は好き	64. 2	58. 4	62. 0	60.8
国語の授業の内容はよく分かる	91. 4	84. 2	82. 1	80. 1
算数・数学の勉強は好き	65. 5	67.8	67.8	59. 1
算数・数学の授業の内容はよく分かる	87. 7	84.6	89. 3	74. 6
英語の勉強は好き	80. 2	68.3	76. 2	56. 7
英語の授業では、英語で自分の考えや気持ちを伝え合うことができていた	66. 7	74.6	81.0	71.0
授業で、課題に対し自ら考え・取り組んだ	82. 7	78. 2	94. 1	81.0
授業で、自分の考えが伝わるよう工夫して発表した	71.6	63. 5	71. 5	62. 0
話し合う活動を通し、自分の考えを深め広げることができている	85. 2	78.8	79. 7	77.8
授業でコンピュータなどの ICT 機器を週 1 回以上使用した	53. 1	39.0	13. 3	34.8
コンピュータなどの ICT 機器は勉強の役に立つ	97.6	94.5	100.0	93. 2
コロナで休校中、勉強に不安を感じた	56.8	55. 2	70.1	72.8
コロナで休校中、計画的に学習を続けていた	64. 2	64.6	39. 1	37.6
コロナで休校中、規則正しい生活を送っていた	63. 0	63. 1	63.1	48.4

「自己肯定感」は、小学生では全国とほぼ同様であるが、中学生では、小学生の割合より約10%ほど下がり、また全国よりも下回っている。「将来の夢や目標」は、小学生は高くなっているが、中学生になると、全国と同様に大幅に下がる傾向がある。「自己有用感」は、小・中学生とも大変高くなっている。「失敗を恐れず挑戦する」は、小・中学生とも70%台と高くない。

「学校へ行くのは楽しい」は、小・中学生とも85%を超え、全国よりも上回っている。さらに「いじめについての理解度」は、大変高くなっており、中学生については、100%となっている。 コンピュータなどの ICT 機器について、使用頻度(週1回以上)は、小学生では50%台と全国を上回っているものの、中学生では10%台と全国を大幅に下回っている。一方、小・中学生ともに「ICT機器は勉強に役に立つ」とほぼ全員が感じている。

「コロナによる休校中の勉強・生活」について、小・中学生とも、不安を感じていたことが伺える。特に、中学生は70%台となっている。そのような状況の中「計画的に学習」「規則的な生活」にむけて、全国とほぼ同等に取り組んでいた。

(3) 関心・意欲・態度等について

質 問 事 項	小学校	全 国	中学校 2 全 国
地域行事に参加している	83. 0	84. 0	58. 3 43. ′
地域や社会をよくするために何をすべきか考える	54. 3	52. 4	54. 8 39. 4
授業以外で日常的に英語を使う機会(話す、手紙、メ	28. 3	43.8	44. 1 34. 8
ール、英語のテレビやホームページ、英会話教室など)			
新聞を週1回以上は読んでいる	7.4	14.8	13. 1 10. 4
自分の家には 101 ~ 200 冊ぐらい本がある (雑誌・新	29. 6	33. 7	34. 5 31.
聞・教科書以外)			

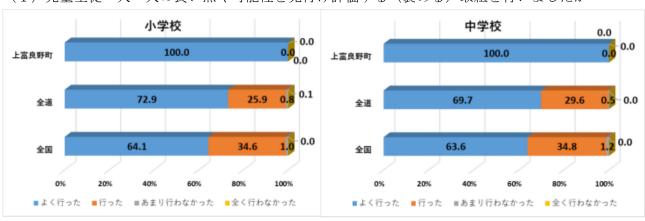
「地域行事への参加」は、小学校では80%以上、中学校では50%台だが、全国よりは高く「地域や社会に対する関心」も高い。

「日常的に英語を使う機会」は、中学生になると高くなってきている。

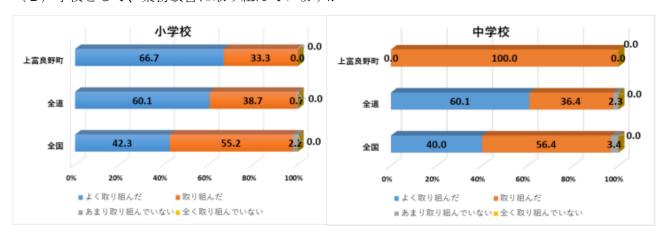
自宅の蔵書数は、全道・全国とも $101\sim200$ 冊が一番多く、本町も同様の傾向である。「新聞を週1回以上読むこと」については、全国の傾向も高くはないが、本町では、中学生になると、新聞を読むようになってくる傾向である。

1 学校質問紙の傾向

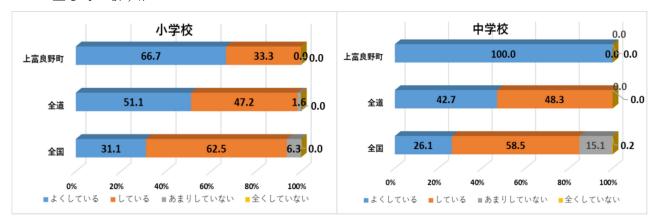
(1) 児童生徒一人一人の良い点や可能性を見付け評価する(褒める) 取組を行いましたか



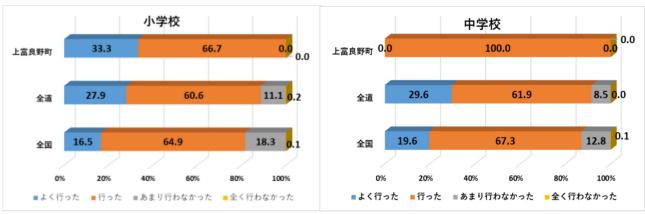
(2) 学校として、業務改善に取り組んでいますか



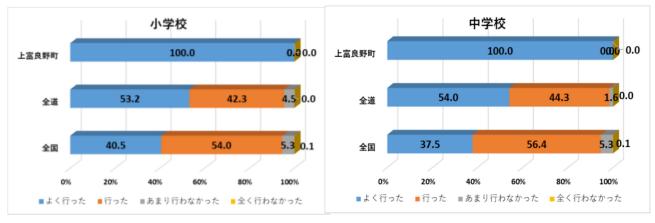
(3) 児童生徒・地域の実態をもとに、教育課程を編成・実施・評価・改善するPDCAサイクルを確立していますか



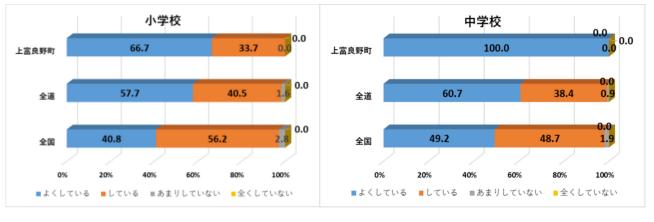
(4) 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善・工夫をしましたか



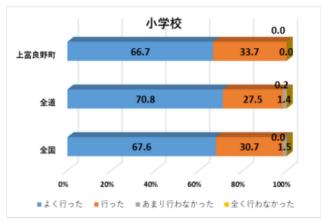
(5) 学級会(学級活動)で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っていますか。

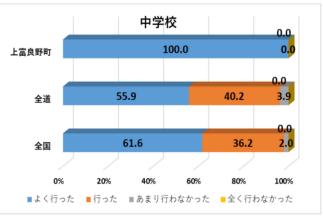


(6)「特別の教科 道徳」において、児童生徒自ら自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

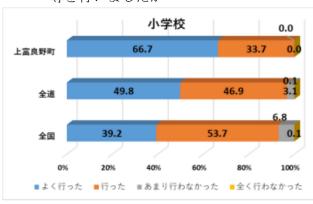


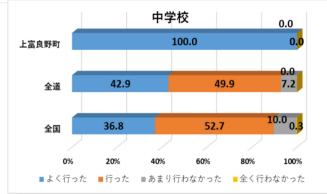
(7)授業の中で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示し、最後に学習したことを振り返る活動 を計画的に取り入れましたか



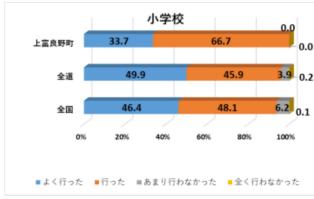


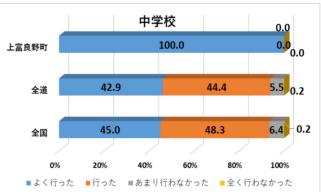
(8) 算数・数学の指導として、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを指導を行いましたか





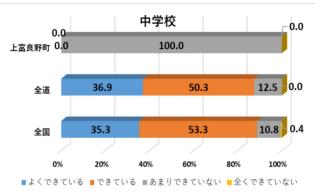
(9) 英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う(対話的な)活動に取り組みましたか



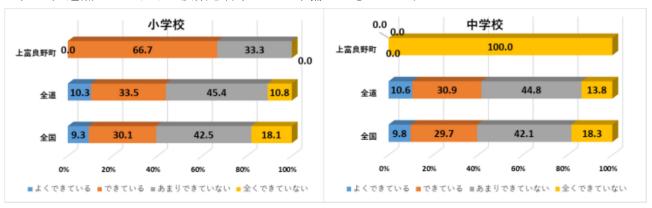


(10) 日常の授業 (授業準備も含む) で活用するための ICT 機器やネットワークの準備ができていますか

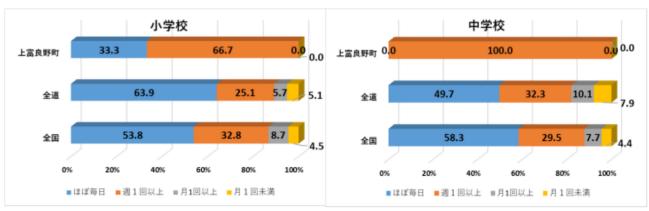




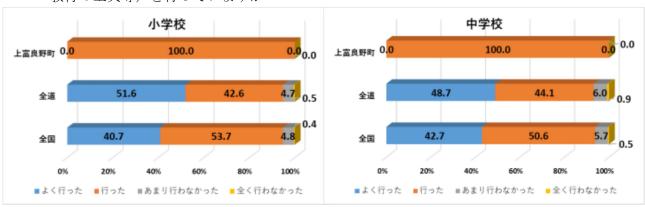
(11) 遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか



(12) ICT機器を活用した授業を1クラス当たり、どの程度行いましたか



(13) 教員は、特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導の工夫(板書、説明、 教材の工夫等)を行っていますか



(14) 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の 人との協働により活動を行いましたか



- ○小・中学校ともに児童生徒の良さや可能性を見つけ評価する共感的な指導を通し、、自己肯 定感を高めている。
- ○学校としての業務改善の取組は、小・中学校いずれも進められているが、「よく取り組んでいる」という意識は、小学校のほうが高い。
- ○今年度より、小・中学校ともに「新学習指導要領」が実施され、その理念のもと、各校における「資質・能力」を明らかにし、教育課程の編成・実施・評価・改善に努めている。
- ○2年目となった「特別の教科 道徳」において、課題を自分事として捉えて考え、話し合う ことを重視し、「議論する道徳」にむけた授業改善が進められている。
- 〇小・中学校ともに、一時間一時間の授業で、「授業の目標(ねらい・めあて)」を児童生徒にしっかりと示し、授業の終わりには、「振り返る活動」を計画的に取り入れ、児童生徒が見通しをもち、主体的に学習できるように努めている。
- ○ノート指導では、特に「算数・数学」において、結果(答え)だけでなく、問題の解き方や 考え方の過程がわかるような指導が進められている。
- ○日常の授業(授業準備を含む)で活用するための ICT 機器やネットワークが準備されていると受け止めている割合は、小・中学校ともに、全国の割合を下回っている。
- ○遠隔・オンライン授業を行うための準備については、どちらかというと小学校のほうが進められている。
- ICT 機器を活用した授業については、小・中学校ともに、「週1回以上」活用する割合が高い。全道・全国では「ほぼ毎日」という割合が高くなっている。
- ○小・中学校ともに、特別支援教育について、共通理解を図りながら、児童生徒の特性に応じた指導の工夫が進められている。
- ○コミュニティ・スクールの仕組みを生かした保護者や地域の人との協働的な活動の実感は、 小学校のほうが高くなっている。

Ⅲ 現状と今後の取組

1 小学校は、国語・算数とも平均正答率が全国平均を下回った。国語は、思考力・判断力・表現力等に関わる「話すこと・聞くこと」は成果が見られるが、「読むこと」が課題となっている。また、問題形式で見ると、「選択式」「短答式」での平均正答率は、ほぼ全道・全国と同様であるが、「記述式」が大幅に下回っている。算数では、「データの活用」「変化と関係」では、成果が見られるが、「図形」が課題となっている。問題形式では、国語と同様に「記述式」の平均正答率が、全国を大幅に下回っている。

中学校では、国語・数学ともに全国平均正答率とほぼ同様となった。国語では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が、全国を上回ったものの、「国語への意欲・関心・態度」に課題が見られた。数学では、16問中11問で全国平均正答率を上回った。特に「数学的な技能」では、全国を大幅に上回っている。一方、「数学的な考え方」に課題が見られる。

小学校では、国語・算数ともに下位グループが、全道・全国よりも多くなっている。中学校では、下位グループは、全国と同様または少なく、中位グループが全国を大幅に上回り、学習内容の確実な定着が進んでいる。

「確かな学力育成プラン」を見直し、授業内容の精選、個別や全体などの指導方法の工夫改善など、児童生徒の実態に即した様々な取組や小中学校の連携を着実に実施していく必要がある。

2 基本的生活習慣が身についている児童生徒が多い。平日の家庭での学習時間が1時間以内の児童生徒が、小学校では40.7%(全国37.5%)、中学校では35.7%(24.0%)と、全国よりも学習時間が少ない傾向である。また、読書を全くしない児童生徒は、小学校25.9%(全国24%)、中学校23.8%(全国37.4%)と中学校では、全国より大幅に少なくなっているが、小・中学校ともに2割以上の児童生徒が自宅では本に全く触れられていない状況である。

「家庭学習のすすめ」(教育委員会)や「家庭学習の手引き」(各学校)等を通した啓発により、家庭学習の確実な定着や生活リズムチェックシート等での「家読時間の設定」による読書の促進を図る必要がある。

3 「将来にむけての夢や目標をもつこと」について、小学校では86.5%(全国80.3%)、中学校では67.1%(全国68.6%)と小学校では全国を上回っているものの、中学校では全国を下回った。また、小学校では80%台となっているのが、中学校になると60%台となっている。

多様性をもたせた職場体験学習の充実をはじめ、キャリア形成をめざすキャリア教育の工夫が 必要である

- 4 「学校にいくのが楽しい」と回答する児童生徒が、小・中学校ともに80%以上と高い。 よさや可能性を大切にする共感的指導や「学ぶことや学校生活が楽しい」と児童生徒が実感で きる体験的な活動をより一層工夫していく必要がある。
- 5 「新型コロナによる長期間の休校中、勉強に不安を感じた」という児童生徒は、小学校では56.8%(全国55.2%)、中学校では70.3%(全国62.8%)であった。今後もいかなる状況下においても、児童生徒の学びが確実に保障できる体制づくりを推進していく必要がある。